

公益財団法人 北海道移植医療推進財団

理事長 柴田 龍

副理事長 原田 浩

副理事長 嶋村 剛

「賛助会員入会」並びに「ご寄附」のお願い

謹啓 皆様にはいよいよご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は移植医療の推進につきまして、格別のご理解とご支援を賜り有難うございます。

当財団は2年前、北海道腎臓バンクと北海道移植医療推進協議会を組織統合し、以来バージョンアップした事業を活発に展開しております。

平成30年度は、普及啓発面と体制整備面を柱に事業を推進させて頂きました。

前者の普及啓発面では、移植医療をより多く道民の方々に知って頂くため、旭川・札幌・釧路・函館の4都市で「移植医療啓蒙活動 PROJECT：市民公開講座」を開催、総勢560名の参加を得る事が出来ました。

後者の体制整備面では、道内主要医療機関在籍の院内移植コーディネーター170名を対象に札幌・釧路で講習会、旭川・函館で勉強会を開催。この他、医療機関要請による勉強会、院内シミュレーションに参加する等、医療従事者の方々との連携を密にすべく移植医療委員会所属の先生方にご支援を頂いております。

令和元年度も移植医療・移植者・総務企画の3委員会を中心となり全道的視野のもと各種事業を企画立案、4つの本支部(札幌・旭川・道東・道南)と調整の上実施してまいります。

知識の普及啓発活動では、引続き講演会・市民公開講座等を全道各地域で開催致します。更に、若年層向けには日本臓器移植ネットワーク企画臓器移植題材「いのちの教育」を高校で積極的に推進すべく、北海道教育庁にお願いし、従来の石狩圏域から全道に範囲を広げた「出前講座」の実施を予定しています。

広大な北海道における当財団の本体制は必須のものであり、日本臓器移植ネットワーク、北海道との連携強化を図り、5～10年先の将来を見据えた事業展開を図りたく考えています。

財団の運営資金は、基本財産運用収入、自治体補助、関係各位のご賛助による会費、ご寄附によっておりますが、近年の金融・経済・財政の諸情勢から基本財産運用収入、自治体補助、賛助会費、寄附金収入共に減少傾向にあります。財団の事業内容につきましては、「平成30年度事業報告」並びに「令和元年度事業計画」を参照願えれば幸いです。

つきましては、当財団の諸事情をご賢察のうえ、賛助会員又はご寄附によるご支援、ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

謹白